

明るいやまがた夏の安全県民運動

夏は長期休暇、レジャー、暑さによる気のゆるみや疲労などから交通事故や水の事故等が多くなり、また、青少年の非行や街頭犯罪等も多くなる傾向にあります。

この時期にあたり、これらの事故を防止するとともに、青少年の健全な育成を図るため、県民総ぐるみの運動を推進し、「安全で明るいやまがた」を創ることを目的とします。

- ◎実施期間 7月21日（木）～8月20日（土） 31日間
- ◎重点項目
 - 青少年の健全育成と非行防止
 - 子どもと高齢者の交通事故防止・飲酒運転の撲滅
 - 海・山・川での事故防止 ○街頭犯罪等の防止

◎重点方策

- 家庭では 子どもの手本になろう 家族ぐるみで交通ルールを守ろう 安全の確認・監視を怠らない
「万引きはしない、させない、良いしつけ」
- 地域等では **大人から朝夕の声かけを** 地域から広げる交通安全 地域ぐるみの防犯活動
海・山・川では安全確保
- 学校では 「良い悪い」を言える子どもに **加害者・被害者にならない防犯意識を**
安全管理と安全指導で事故防止 「反射材 つけて輝く 身の用心」



広域指導センターの巡回指導

「大人が変われば子どもも変わる」県民運動 重点期間7・8・11月

「子どもは社会を映す鏡」と言われるように、青少年の問題は、大人社会の問題を反映しているものです。子どもたちは、身近な人々や地域社会の様々な環境から強く影響を受けて育っています。

子どもたちが事件や事故に巻き込まれ、犯罪の被害者となることのないよう、大人が子どもたちの目線に立って、子どもたちが自由に学び、遊び、行動できる環境を作ることが大切です。

次に、幅広い本運動を焦点化し、具体的な行動目標を3つに絞り込んだものを紹介します。この夏の7・8月が重点期間となっておりますので、多くの方々に柱の1つだけでも日ごろ心掛けていただき、青少年健全育成の一助としてもらいたいものです。

「大人が変われば子どもも変わる」 県民運動3つの柱

- 1 声かけ運動 ～子どもと地域の方々に関心を持って～
 - ①コミュニケーションを深める（あいさつする、顔見知りになる等）
 - ②見守る（話を聞く、ときに励ます、ほめる、注意する、叱る等）
- 2 モラル・マナーの向上運動 ～子どもの手本となって～
 - ①ゴミ・空き缶・吸殻を捨てない、捨てる、持ち帰る
 - ②高齢者・障がい者等に優しく（列車・バスで席を譲る等）
 - ③交通ルールを守る（スピードを守る、歩行者に優しい運転等）
- 3 子どもを事故・犯罪から守る運動 ～子どもの安全は地域全体で見守って～
 - ①子どもの見守り活動を行う（通学時等）
 - ②未成年者への飲酒・喫煙の防止を働きかける
 - ③万引きを「しない・させない・見逃さない」環境づくりを推進する



最上総合支庁協の幟旗